小学校の適正規模等への見解

（適正規模等）

○　望ましい学級数

- １学年１学級以上を原則とする。

○　望ましい１学級の児童数

- １５名から２５名程度を標準とする。

○　望ましい通学距離と通学時間

- 徒歩通学において、学校を中心に直線距離で半径２㎞程度、通学時間にして徒歩では３０～４０分程度以内が望ましい。

（学校規模によるメリット・デメリット）

別紙のとおり

（学校の統廃合、再編によるメリット・デメリット）

【メリット】

- 学校運営に係る光熱水費や修繕費等の経費の削減が期待でき、予算の集中投入が見込める。
- 出生数の減少が予測される中、ある程度の学校規模の確保が可能となる。
- 統廃合、再編を契機として、学習環境の充実を図ることができ、また、地域と学校との関係を見つめなおす機会ともなる。

【デメリット】

- 通学事情の変化により、スクールバスなどでの通学が必要となる場合が生じる。このことにより基礎体力など運動能力等の課題が表れる恐れがある。また、スクールバス運行に係る人的、物的経費が必要となる。
- 子育て世代がこれから住居地を選ぶ場合、通学が容易であるか否かを選択肢の一つとすることが考えられることから、学校から遠距離となる地域での居住について課題となる可能性があり、当該地域の衰退が加速化することも考えられる。

（学校の統廃合、再編を進める上で考慮すべきこと）

- 町教育委員会や教職員はもとより、地域や保護者との共通理解のもと、授業の形態や教育環境について、統廃合、再編により新しい学校を創っていこうという意識の醸成が必要となること。
- 「地域とともにある学校づくり」の観点から、地域や保護者との間で、教育上の課題やこれからのまちづくりも含めた将来ビジョンを共有し、十分な理解や協力を得ながら進めていくこと。